

日本保健物理学会 新 Newsletter 2018 年 10 月 25 日号

送信者:一般社団法人日本保健物理学会<exec.off@jhps.or.jp> 2018/10/25 12:31:08

日本保健物理学会 新 Newsletter 2018 年 10 月 25 日号

1. 学会関連情報

○編集委員会 電子ジャーナル「保健物理」53-3号が発行されました。

下記 URL よりダウンロードできます。

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/academic/page.cgi?id=41>

○IRPA15 2020 年 5 月 11-15 日に韓国（ソウル）にて開催されます。

IRPA15 official website: <http://www.irpa2020.org>

First Announcement: http://www.irpa2020.org/download/IRPA15_1st%20Announcement_high.pdf

○本学会共催（再掲）保物セミナー2018 開催のお知らせ「世界のエネルギー事情とこれから保健物理」

1 日目：11 月 15 日（木）13:00-20:00、2 日目：16 日（金）9:30-15:00

大阪科学技術センター 8 階大ホール（ボイリング・ディスカッションは地下 1 階）

<http://anshin-kagaku.news.coocan.jp/hobutsu2018post1010.pdf>

○本学会共催（再掲）ICRP-QST-RERF Workshop on Individual Response to Ionising Radiation :

Current Scientific Evidence on Factors that Influence Individual Response

（12 月 12 日、国立がん研究センター 築地キャンパス）

Second Announcement:

<http://www.icrp.org/admin/ICRP-QST-RERF%20Workshop%20Dec%202018%20Second%20Announcement.pdf>

2. 関連する研究情報

○IAEA ILO との共同で IAEA Safety Standards Series, Occupational Radiation protection, General Safety

Guide GSG-7 を刊行

<https://www.iaea.org/publications/11113/occupational-radiation-protection>

○米国放射線防護審議会(NCRP) 第 1 専門委員会(PAC 1)科学委員会 1-24 第 2 期(SC1-24P2)レポート草案

「Radiation Exposures in Space and the Potential for Central Nervous System Effects (Phase II)」の公開

意見募集開始（コメント締切 11 月 13 日）

<https://ncrponline.org/>

レポート草案 PDF は↓よりダウンロード可能です。

https://ncrponline.org/wp-content/themes/ncrp/PDFs/Docs_in_Review/NCRPM1843.pdf

本草案は、SC 1-24(第1期)の刊行物である2016年のNCRP Commentary No. 25 「Potential for Central Nervous System Effects from Radiation Exposure During Space Activities Phase I: Overview」↓の続報

<https://ncrponline.org/shop/commentaries/potential-for-central-nervous-system-effects-from-radiation-exposure-during-space-activities-phase-i-overview-2016/>

(論文情報)

○J Nucl Sci Tech Published online: 08 Oct 2018

本学会の内部被ばく影響評価委員会の活動成果の一つ。不溶性放射性セシウムの粒子の呼吸摂取による線量評価法を確率論的方法によって行い、少数の不溶性微粒子を吸入したときの粒子の沈着や体内動態を確率的に評価することによって、線量係数の取りうる範囲を評価した。

Development of a stochastic biokinetic method and its application to internal dose estimation for insoluble cesium-bearing particles

Manabe K, Matsumoto M

<https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/00223131.2018.1523756?journalCode=tnst20>

○Radiation Protection Dosimetry, ncy175, <https://doi.org/10.1093/rpd/ncy175> Published: 05 October 2018

NaI(Tl)サーベイメーターを用いた甲状腺スクリーニング調査の演習として、通常線量率 (~0.05 μSv/h) と高BG線量率 (~0.5 μSv/h) の2つの条件下でさまざまな放射能のI-131点線源が内蔵されたマネキンヘッドを20名の演習参加者が測定。測定値はBGの線量率にあまり依存せず、0.2 μSv/hを超える線量率において測定値の偏差は10-20%以内であった。実際の原子力事故の状況において、OIL8として示されている線量率(0.5 μSv/h)以上でも信頼できる線量率を得る可能性を示唆。

A screening survey exercise for thyroid internal exposure from radioiodine after a nuclear accident

Yajima K et al

https://academic.oup.com/rpd/advance-article/doi/10.1093/rpd/ncy175/5115812#.W7xlcun_ktw_twitter

○Lancet Oncol. 2018 Oct;19(10):1280-1283. doi:10.1016/S1470-2045(18)30680-6.

世界保健機関(WHO)の国際がん研究機関(IARC)は、原子力事故の甲状腺モニタリングの長期的戦略を検討するための専門家グループを設置し、報告書(IARC Technical Publication No. 46*)を作成。その主な勧告は、特定地域の住民全員への甲状腺スクリーニング実施に懐疑的であることと、高リスク者(胎内、小児、青年期の甲状腺線量が100-500mGyをこえる者)には、長期モニタリングプログラムを実施可能な限り早く開始し、成人になっても2-5年間隔で継続することの2点。

Long-term strategies for thyroid health monitoring after nuclear accidents: recommendations from an Expert Group convened by IARC

Togawa K et al

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/30303113>

*報告書PDFは↓よりダウンロード可(前回で紹介したIARC報告書と同一)

<http://publications.iarc.fr/Book-And-Report-Series/Iarc-Technical-Publications/Thyroid-Health-Monitoring-After-Nuclear-Accidents-2018>

○Eur J Epidemiol. 2018 Oct 10. doi: 10.1007/s10654-018-0450-4. [Epub ahead of print]

ロシアマヤック作業員コホート(慢性被ばく集団)の眼疫学研究の論文(白内障第二報)。1948年から1982年に初回雇用された22,377人を2008年まで追跡。

平均被ばく線量は約0.5 Sv。放射線白内障の3つの型(後囊下白内障、皮質白内障、核白内障)のいずれも、それぞれの罹患リスクが直線的に有意に増加。

ERR/Svは、後囊下白内障>皮質白内障>核白内障。女性(コホートの25.4%)の方が男性より放射線白内障リスク(ERR/Sv)が有意に高い(特に後囊下白内障)。

Risk of various types of cataracts in a cohort of Mayak workers following chronic occupational exposure to ionizing radiation

Azizova TV et al

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/30306422>

(上記論文は <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/27723789> の続報)

○Br J Cancer. 2018 Aug;119(5):631-637. doi: 10.1038/s41416-018-0184-9.

英国放射線作業員登録に基づく職業外部被ばくのがん疫学研究の論文。167,003人を平均32年間追跡。平均被ばく線量は25mSv。がんの罹患と死亡のいずれも有意な相関があり、累積線量<100 mSvでも有意な直線性。

Cancer mortality and incidence following external occupational radiation exposure: an update of the 3rd analysis of the UK national registry for radiation workers

Haylock RGE et al

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/30108294>

3. ニュースや社会の動き

○原子力規制委員会 原子力災害発生初期(1週間以内)の緊急時を対象に、事前の防護戦略を策定するための目安となる線量水準として実効線量100 mSvを示す。(10月17日)

<http://www.nsr.go.jp/data/000249532.pdf>

○日本アイソトープ協会

・放射線安全取扱部会 法令検討専門委員会「放射線予防規程ガイドの解説」主に法令改正により変更となる部分を公開(10月18日)

<https://www.jrias.or.jp/report/cat3/post-2.html>

・ICRP 勧告日本語版シリーズにICRP Publ. 108, 115, 117, 118, 120, 122, SG2を追加(10月12日)

<https://www.jrias.or.jp/books/cat/sub1-01/101-14.html>

○国立環境研究所 NIES レターふくしま10月号を刊行(10月19日)

http://www.nies.go.jp/fukushima/jqjm1000000a3pas-att/NIES_letter_fukushima-18.pdf

- 放射線影響協会 除染等業務従事者等被ばく線量登録管理制度における四半期毎の線量分布（平成29年7月～平成30年6月）を公表（10月22日）

http://www.rea.or.jp/chutou/koukai_jyosen/shihanki/shihanki_jyosen-H29_ver.3.pdf

4. これからのイベント

- 消費者庁、厚生省、内閣府食品安全委員会、農林水産省主催 食品中の放射性物質に関する意見交換会
「食品中の放射性物質をめぐる震災からの歩み—これまでを知り、明日の消費行動を考える—」（11月12～28日、東京、静岡、大阪、沖縄）

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/1111212865_00008.html

- 日本技術士会 原子力・放射線部会「中間貯蔵等のオフサイトに係る課題と対応状況」（11月16日18:00～20:00、東京 機械振興会館 6階 6-67号室）会費：会員500円 日本保健物理学会員は、技術士会正会員と同額会費。

<https://www.engineer.or.jp/ippan/dmsw0211.php>

- 日本核物質管理学会(INMMJ) 第39回年次大会（11月20～21日、東京大学弥生講堂アネックス）

<http://www.inmmj.org/>

○量研機構

- ・関西光科学研究所（木津地区）施設公開（10月28日）

http://www.kansai.qst.go.jp/images/oldimages/openhouse_2018.pdf

- ・量子医学・医療開発研究説明会（10月29日、放射線医学総合研究所 重粒子治療推進棟 2F 大会議室）

http://www.nirs.qst.go.jp/information/event/2018/10_29/flyer.PDF

- 東京工業大学 原子力規制人材育成事業「放射線災害対応実習」

東京工業大学・米国テキサス A&M 大学にて、放射線災害時を想定した核物質の検知等に関する集中講義・実習を実施（2019年2月23日～3月1日）

実習参加者・オブザーバーを募集中（申込期限：10月26日）

<http://www.ne.titech.ac.jp/kiseijinzei/jp/events/2019/190223.html>

○原子力安全技術センター

- ・平成30年度放射線安全管理講習会申込受付を開始

（11月14日 大阪科学技術センター 大ホール、11月26日 福岡リファレンス駅東ビル 5F V-1、

12月17日 東京すみだ産業会館 8Fホール）

<https://www.nustec.or.jp/project/ankan.html>

- ・平成30年度医療機関のための放射線安全管理講習会申込受付を開始

（11月27日 岡山コンベンションセンター 301会議室、11月30日 東京すみだ産業会館 8Fホール）

<https://www.nustec.or.jp/project/iryoankan.html>

5. 公募情報、学生・ポスドク受入情報

○福島県職員（任期付研究員（環境職））除染・廃棄物分野（環境動態・陸水学）、除染・廃棄物分野（総合化学）
それぞれ 1 名（締切：11 月 9 日）

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01125c/ninkitukikenkyuuin30kankyou2.html>

○原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室 任期付き職員 1 名（締切：11 月 9 日）

http://www.nsr.go.jp/nra/employ/ninki20181016_01_.html

○つくば国際大学医療保健学部 診療放射線学科 核医学検査技術学（教授、准教授、講師または助教）1 名
（締切：11 月 30 日必着）

<https://www.ktt.ac.jp/tiu/participants/participants-rt.htm>

○京都大学工学研究科附属量子理工学教育研究センター 教授 1 名（締切：11 月 12 日）

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/acceptance/other/koubo/kougaku/2018/181112_1310.html/at_view/file

○大阪大学放射線科学基盤機構 特任助教 1 名（核化学あるいは核物理およびその関連分野）（締切：11 月 30 日）

http://www.irs.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/10/181011_01.pdf

○大阪大学放射線科学基盤機構 特任助教 1 名（生物分子化学、有機合成、核医学、核薬学およびその関連分野）
（締切：11 月 30 日）

http://www.irs.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/10/181011_02.pdf

既発行の新 Newsletter はこちらです。

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/newsletter/page.cgi>

新 Newsletter にて発信を希望する情報をお持ちの方は、学会事務局へご連絡・お問い合わせください。

【発行】一般社団法人日本保健物理学会

【編集】同企画委員会

【発信元】同学会事務局

TEL: 03-6205-4649 FAX: 03-6205-4659

E-mail: exec.off@jhps.or.jp
